

令和8年度 秋田県立農業科学館運営協議会(議事録要旨)

- 1 日 時 令和8年7月22日(水) 13:30~15:15
- 2 場 所 秋田県立農業科学館 多目的ホール
- 3 出 席 者 秋田県立農業科学館運営協議会委員6名
- 4 議事概要

(1) 報告(①~③について事務局から説明)

①令和7年度実施事業等について

②令和8年度各種事業等について

③令和8年度あきたMuseum機能強化事業

「Museum特別展充実事業」の外部評価について

【質疑】(○:協議会委員、■:事務局)

○ 研究機関紹介展で県内7箇所の施設紹介を行っているが、逆に当館のPRやパネルの展示などを他施設や県内の各地域(秋田市や県北等)へ働きかけているか。

■ 特別展のポスター等は県立美術館や博物館、図書館等のほか、今年度はスーパーなど民間店舗へも掲示依頼の幅を広げている。

○ 全国高等学校総合文化祭が本県で開催される。そこで展示された写真(農業に関わるもの等)を当館で展示するなど、地域や学校と連携した写真展等の開催は可能か。

■ 成果物や作品の展示を単発で終わらせず活かせる場を設けることは非常に良いことだと思うので、前向きな方向で連携できればと思う。

○ イベント等の案内メールについて、障害福祉分野だけでなく高齢分野も含め全県の福祉施設への一斉配信や、周知を強化してはどうか。

■ イベント期間に来ていただける福祉施設の方が増えると思われるので検討してみたい。

○ 保育園関係にもイベント情報をメール配信していると思うが、迷惑メールとして扱われないよう事前に配信の知らせをもらえないか。

■ 市町村の担当課や関係協会を通じて年間のイベント情報を配付している。幼稚園等はメールアドレスが不明だったりするのでメール配信はしておらず、迷惑メールとして処理されることもあり、メールの配信は検討していない。

○ バラフェスタ期間中のグリクラパークは大変盛況だったが、昨年度と今年度で出店数の傾向は変化したか。

■ グリクラパークが始まって今年で3回目になるが、初年度115店舗あった出店数が次年度は44店舗となった。これは集客力を高めるため開催期間を短くしたことにより出店数が減ったものであるが、結果的に1日当たりの集客数は初年度を上回った。今年度も同じような開催期間であったが、出店数は51店舗であった。

○ セカンドスクールの利用において小学校の利用が微減傾向にあるが、要因としてバス手配の難しさなどが考えられる。植栽だけでなく食育に関する取組もアピールして当館の利用を呼びかけてみてはどうか。

■ 有難い貴重な意見である。

(2) 協議(議題：多様なニーズに応える「食農教育プログラム」の開発と、地域の協働による交流拠点機能の強化について)

【内容】(○:協議会委員、■:事務局)

○ スマート農業、SDGs等の最新の知見や研究成果を発信するため、教育庁・農業科学館から秋田県立大学へ連携を持ちかけてはどうか。

■ どのような連携の形がいいのか、教育委員会内部でも検討したい。

○ 食育であれば小学校の家庭科、農業の持続可能性であれば5年生の社会科など、学習内容に合わせて未来の農業の可能性を伝える出前授業や講話などを提供してはどうか。

○ 農業科学館を会場に異年齢・異校種(小・中・高・大学)の交流機会や、地域住民・保護者も参加できるイベントや体験活動(収穫祭や花苗の交流など)を企画できないか。

■ 小学校への出前授業や高校生・大学生が関わる交流イベントは、児童・生徒にとって貴重な体験になると思う。また交流イベントに保護者の方も一緒に足を運んでいただけたら有難く思う。学校行事との兼ね合いもありハードルが高いが、前向きに検討できればと思う。

○ クマの出没等があり、保育園では安心安全のため園外保育の行き先が狭まっている。当館でも園児のジャム作り体験だとか、屋内活動ができれば利用の幅が広がるのではないかな。また、保育園への出前講座があると良い。

■ 出前授業ではないが当館のリンゴを使って親子でジャム作りを体験できる講座がある。秋の収穫体験等の繁忙期をはずして相談をいただければ出前の実施も検討できる。

○ 防災キャンプやアウトドア講座、ドローン教室、温室の活用(バナナの葉を活用した工作等)、休止中のレストラン調理場の活用による伝統料理講座など、敷地や設備を生かした多様なアプローチはできないか。

■ 火気の使用や制限等を確認しつつ、施設を上手く利用した多様な切り口による講座や体験プログラムが出来ないか考えていきたい。

○ 若者が将来の選択肢として農業を選び、営農していける道筋や人生設計を提示していくために、若手農家、高校生・大学生、観光物産協会等が集い、商品開発や交流を行うミーティングの場を当館がハブとなって創出してはどうか。

■ 地域の多様な主体が繋がることで新たなアイデアや意識が生まれると思う。実現に向けた手法を検討していきたい。